

---

# 暖地型飼料作物の導入に関する研究

第4報 ネーピア・グラスの繁殖について

讃井芳胤\*・井手迫金一\*

SANUI, Y. and IDESAKO, K. Studies on the Tropical Forage  
Crops in the Warm Region of Japan.  
(4) On the propagation of napier grass.

---

ネーピア・グラスは既報の通り、青刈栽培試験の結

\* 鹿児島県農業試験場

果暖地において有望な飼料作物であることはわかった  
が、稔実が極めて不良で一般牧草のように種子による

繁殖が困難である。従つて栄養茎による能率的な繁殖法を見出すため、昭和33年から主として茎の活着歩合等を時期別に調査中であるので今回はその成績概要について報告する。

### 1. 試験方法

供試材料は節間伸長を始めたネーピア・グラスの生茎を6月から3月まで毎月採取し、整苗法はサトウキビの整苗に準じ3節付に切断したもので、1区10本あてとし、1茎からの整苗数は時期別に異り1～6本である。茎の挿し方は、予め整地した苗床に30cm<sup>2</sup>に1本あて水平並びに斜挿(3節中2節を土中に挿入角度は30～45°)した。なお挿苗後床面の乾燥を防止するためイネワラで被覆した。発根並びに萌芽の調査は挿苗後1ヶ月とし、12月以降の分については翌春5月に茎を抜きとり調査を行った。

### 2. 成績及び考察

1茎から得られる整苗数は9月～12月の降霜前までのものが最もよく伸長しており採苗にも都合がよい、降霜以降は茎の先端から次第に枯死するので採苗しても余り期待されない。活着歩合を時期別に見ると7月～9月は100%で、10月も優れている。1月以降はそ

ネーピア・グラスの茎の時期別活着歩合(昭和34年)

項目	1茎 当たり 整苗数	水平挿区			斜挿区			前年度水 平挿活着 歩合	
		挿苗 数	萌芽 数	活着 歩合	挿苗 数	萌芽 数	活着 歩合		
月	日	本	本	本	%	本	本	%	%
6.	10	1	10	2	20	10	6	60	10
7.	10	2	20	18	90	20	20	100	30
8.	10	4	40	29	73	40	40	100	56
9.	10	6	60	58	97	60	60	100	43
10.	10	6	60	52	87	60	55	92	41
11.	10	6	60	52	87	60	30	50	49
12.	10	6	60	46	77	60	18	30	48
1.	10	5	50	0	0	50	0	0	13
2.	10	5	50	0	0	50	0	0	0
3.	10	4	40	0	0	40	0	0	0

の年の霜の強弱にもよるがほとんど見込みがないようである。整苗の萌芽発根を部位別に調べた結果では茎の上部、下部間に優劣を認めることができない。以上のとおりネーピア・グラスの挿茎と活着の関係は、時期別には8月～10月が総括的に好しく、挿し方では斜め挿がこの時期では水平挿に比べやや優れるようであるが、作業労力など実用的な方法としてはむしろ水平挿が望ましいので、今後は更に簡易な繁殖法の検討が必要である。また茎挿し苗によるネーピア・グラスの利用時期並びに青刈生産力については現在試験を行っており8月中に挿茎すれば年内に1～2回の刈取りが可能であるからこれまでの株分け繁殖に優る能率的な方法と考えられる。